

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○8月21日～

先週は146円台半ばまで円安が進みました。

週後半にかけて少し反落してきましたがドル／円は高値圏での推移が続いています。

日本の介入警戒感が高まっていますがトレンド的にはドル／円の上昇が崩れてくる兆候は今のところ見られません。

株価が少し軟調な動きになっているのは気がかりですが日本株が下がっても円高に動くという連動性はあまりない相場となっています。

米国の銀行の格下げ問題や中国の恒大集団が米国でオフショア債務再編手続きを開始したなど不安材料も多く、ビットコインも先週は大きく下落しました。

米国株の上昇が崩れてきていることがチャートでも確認できる状態になってきました。

中国株、その他の世界の株も下げてきているため春以降の株の上昇トレンドに変化が出てきます。8月に入って株価は軟調な動きが続いているためリスク回避的な動きに注意がいります。

米国の長期金利が上昇し続けていることも株価にマイナスに働いています。

今週は、22日から24日までBRICS首脳会議が南アフリカで開催されます。

そして、25日にはジャクソンホールでの会合でパウエルFRB議長がどのような講演をするかにも注目が集まっています。

また、ユーロに関しては、ジャクソンホールでのラガルド・ECB総裁の発言も要チェックです。

米国経済は思っているより強い動きですが中国経済は不動産部門だけでなく低迷状態が長引きそうなので中国との貿易が多い国は影響が出てくる可能性があります。

世界的なインフレはまだ完全におさまっておらず、英国や欧州では米国に比べて利上げによるインフレ抑制効果が少ないように見えます。

現在、利上げを休止している国もインフレ再燃となれば再度利上げに動く可能性もあります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドルは145円を超えて、146.5円あたりまで上昇しました。

先週末にかけて少し下げて、145円台前半で取引を終えています。

145円超で買っていくのはリスクが高いため、買う場合は下がってきたところを押し目買いで狙いたいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

下値は、144円あたりにサポートがあるので、このあたりまで下がることがあれば押し目買いを考えたいです。

144円を割り込むと142円あたりのサポートが意識されます。

8月前半につけた141.5円を割り込むような動きになると円高が進むリスクがあります。

145円をはさんでレンジ相場のような動きになる可能性もあるため細かく売買した方がよさそうです。

かなり高値圏にあることを意識して、急落リスクには備えておきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週後半は下げているペアが多く、下げ止まるまで慎重に取引したいです。

オセアニア通貨はテクニカルで見ると日足も週足も軟調な動きなので特に注意がいります。

豪ドルは中国景気の悪化の影響や原油安の動きが進むとさらにダメージを受ける可能性があります。オーストラリアの貿易を考えると中国の影響は無視できません。

クロス円は株価が下がると連動して下がるリスクもあるので、下げ止まるまで慌てて買うのは危険です。株価動向も見ておく必要があります。

ユーロは先週159円台まで上昇しました。

ユーロもポンドもまだ利上げ期待があるため円に対してしばらくは上昇していく可能性があります。ただし、今週は先週の木曜を天井に下げているため週明けにさらに下がるリスクがあります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では8月東京都区部消費者物価指数などがあります。

米国では7月中古住宅販売件数、8月リッチモンド連銀製造業指数、8月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、7月新築住宅販売件数、7月耐久財受注、前週分新規失業保険申請件数、8月ミシガン大学消費者信頼感指数、パウエルFRB議長発言(ジャクソンホール)などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで8月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで4-6月期GDP(改定値)、8月IFO企業景況感指数、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには英国で8月製造業・サービス業PMI(速報値)、トルコで政策金利の発表などがあります。